シリーズ 人権

みんなで考えよう。
人が人らしく生きるために…

「家族の絆 愛の詩」
大切に思う気持ちからはじまるもの

妹のクリームパン

わたしはパンがにがて
きらい、大きらい
きゅう食がパンの日は
いつも気分がさがる
「はぁ今日はパンの日だ～
　いやだな」
いつも火曜日のあさは
こんなかんじ
わたしは2さいの妹がいる
妹とよく絵をかいてあそぶ
クレヨンをにぎっている
妹の手
何かににているなーって
見ていたら
「あっクリームパンだ」
じっくりずっと見ていたら
丸っこくてふわふわした
クリームパン
小さい小さいクリームパン
ゆびでつんつんしたら
ふわふわしててパンのように
やわらかい
ほっぺにすりすり
なんかあまいにおいもする
ほんとうにクリームパンみ
たい
わたしの手をギュッとにぎる
妹の小さなクリームパン
あったかくてかわいい
食べたくなるほど
もちもちふわふわだ
パンがきらいなわたしでも
妹のクリームパンは大すき
わたしのたった一つの
大すきなパン
見いつけた

クリームパンのぬくもり

この詩は、昨年度養老町が募集した「家族の絆　愛の詩」小中学生の部で最優秀賞を受賞した、町内の小学校に通う2年生(応募時)、粟野天夢さんの作品です。この詩には、日常にあるかけがえのない家族のつながりが、素直な感性で生き生きと描かれています。

クレヨンを握る妹の手を見つめながら、「あっクリームパンだ」と気付く場面からは、豊かな発想と観察力が感じられます。丸くて、ふわふわしていて、小さくてやわらかい手。その様子が「クリームパン」という身近なたとえによって表現されることで、読み手にもその感触やぬくもりが自然と伝わってきます。

さらに、「ゆびでつんつん」「ほっぺにすりすり」といった描写からは、妹の存在がどれほど愛おしいものであるかが伝わってきます。ただ見ているだけでなく、触れ、感じ、確かめることで、その存在を丸ごと受けとめている様子がうかがえます。そして、「あまいにおいもする」という表現からは、家族に包まれて育つ安心感やぬくもりが、優しく滲み出ているようにも感じられます。

その背景には、子どもたちを温かく見守り、支えている保護者の存在があることも想像されます。こうした何気ない場面の一つひとつに、家庭の中で育まれている愛情の積み重ねを見ることができます。

大切に思う気持ちから

人は誰しも、誰かに大切にされ、受け入れられることで、自分の存在に安心し、心を育んでいきます。そうした安心感の中で育った子どもは、今度は自分が誰かを思いやることができるようになります。この詩に描かれている姉妹のやりとりは、まさにそのような愛情のつながりを感じさせてくれます。

人権とは、決して特別な場面だけにあるものではなく、この詩に描かれているような、日々の暮らしの中での小さな関わりや、「大切に思う気持ち」の積み重ねの中にこそ息づいているものです。目には見えにくいかもしれませんが、家族の中で育まれるぬくもりや安心感が、一人ひとりの尊厳を支える土台となっていきます。

「わたしのたった一つの大すきなパン　見いつけた」という結びには、自分にとっての大切な存在に気づいた喜びが、まっすぐに表現されています。私たちの身の回りにも、このような「見つけた」と感じる瞬間があるのではないでしょうか。こうした家族の絆や人と人との温かなつながりを見つめ直す機会として、「家族の絆　愛の詩」を毎年募集しています。今年度は6月1日から9月4日までが募集期間となっています。多くの皆さまからのご応募をお待ちしております。何気ない日常の中にある「大切な気持ち」を、ぜひ言葉にしてみてください。その一つひとつの言葉が、誰かの心にやさしく届き、人と人とをつなぐ力となっていくことを願っています。